



# 外国語教育メディア学会 (LET) 第 103 回 (2024 年度秋季) 中部支部研究大会 プログラム



大会テーマ :

「言語教育と音楽の融合 ～技術革新がもたらす発展的アプローチ～」

日時 2024 年 12 月 14 日 (土) 10:00-17:00  
会場 岐阜女子大学文化情報研究センター  
〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 4 階

研究大会実行委員長 高橋 美由紀 (愛知教育大学)  
同 副実行委員長 寶壺 貴之 (岐阜聖徳学園大学)

主催 外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部  
後援 岐阜県教育委員会・岐阜市教育委員会 (申請中)

問い合わせ先 : 外国語教育メディア学会 (LET) 中部支部事務局  
事務局長 工藤 泰三 (名古屋学院大学) taizo@ngu.ac.jp

**参加申込締切は 12 月 11 日 (木) です**

大会詳細はこちらから  
(<https://www.letchubu.org/conferences/103rd/>) →



## 時 程

---

9:30 受付開始

10:00 - 10:10 開会式 【第1室（大会議室）】

司会：寶壺 貴之（岐阜聖徳学園大学）

主催者挨拶：西尾 由里

（中部支部支部長・名城大学）

実行委員長挨拶：高橋 美由紀（愛知教育大学）

事務連絡：工藤 泰三

（中部支部事務局長・名古屋学院大学）

---

10:10 - 12:10 シンポジウム 【第1室（大会議室）】

司会：高橋 美由紀（愛知教育大学）

シンポジアスト：

南谷守（愛知県立尾北高等学校）

松田洋和（多治見市立北栄小学校）

後藤健一（大垣市立西部中学校）

### 「令和の日本型教育における英語教育のあり方 —デジタル教科書・ALT・教師の英語指導における役割—」

#### 【発表概要】

南谷守（愛知県立尾北高等学校長）

「小中高の連携による一貫した英語教育を目指して

—あいちリーディングスクールとしての一つの試み—」

本校は、令和5年度から5年間、県の施策「あいちリーディングスクール事業」の指定を受け、先進的英語教育の拠点として尾張地区の高等学校を対象に、授業研修を実施しています。本校での英語教育の実践を広く還元するだけでなく、小・中学校と連携し小中高での連続した英語教育のあり方を考え、授業実践に生かすことを目指しています。本発表では、こうしたリーディングスクールとしての取組に加え、高校での英語教育の状況と課題を説明します。

松田洋和（多治見市立北栄小学校教諭）

「児童が楽しく学べる外国語科の授業 ～自ら学びを求めていく児童の育成をめざして～」

「英語の授業が楽しい！」児童が、そんな思いをもてるような授業をめざしたい。外交語科の教員なら、誰しもが一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。児童にとって、学びが与えられるものではなく、児童が自ら学びを求めていくものになるよう、以下の2点の工夫を行った。

① 単元又は単位時間におけるALTの効果的な活用

② ICT を用いた指導と評価の一体化をめざした指導過程、指導方法の工夫  
教師が ALT を効果的に活用した授業づくりを行い、ICT を活かした指導と評価を行えば、児童は、楽しい言語活動の中で、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成できると考えた。

後藤健一（大垣市立西部中学校教諭）

「デジタル教科書などの ICT と ALT を活用した授業実践 ～New Horizon 3 Let's Read 1 “A Mother's Lullaby”と Unit 4 “Be Prepared and Work Together”の指導を通して～」

デジタル教科書や教育支援ツール、生成 AI といった技術を授業に活用することで、生徒の主体的な学びを促進し、個の学びを見届けることが可能になっています。また、ALT を活用することで、コミュニケーションにリアルな目的意識と相手意識を持たせることも重要です。本発表では、中学 3 年生の 2 つの単元での指導実践を通じて、ICT 機器や ALT を活用した具体的な指導と学びの様子を報告します。

.....

### 12:10 – 13:20 昼食

- 昼食は各自でお済ませください。なお、弁当（1,200 円程度を予定）の注文をご希望の方は 12/1（日）までに参加申込フォームにてお知らせください。
  - 昼食はランチョンセミナーにご参加しながらお召し上がりいただけます。
- .....

### 12:15 – 13:15 賛助会員プレゼンテーション（ランチョンセミナー）【第 1 室（大会議室）】

司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）

12:15-12:25 株式会社 アルクエデュケーション

(<https://www.alc-education.co.jp/academic/>)

12:25-12:35 株式会社教育測定研究所 (<https://www.jiem.co.jp/>)

12:35-12:45 iJapan 株式会社 (<https://www.igroupjapan.com/>)

12:45-12:55 合同会社 EduSupport (<https://www.edusupport.biz/>)

12:55-13:05 ピアソン・ジャパン株式会社

(<https://www.pearson.com/languages/ja-jp.html>)

13:05-13:15 株式会社 EdulinX (<https://service.edulinx.co.jp/sc/>)

.....

13:20 – 15:20 研究発表・実践報告

(発表概要は pp. 6-8 をご参照ください)

<p align="center"><b>【第1室 (大会議室)】</b> 司会：宮崎 佳典 (静岡大学)</p>	<p align="center"><b>【第2室 (小会議室)】</b> 司会：ポール ウィキン (名城大学)</p>
<p><b>13:20 – 13:50 【研究発表】</b> 英単語並べ替え問題の解答履歴に迷い推定を 包含する学習管理システム開発                   山川 智也 (静岡大学大学院生)                   宮崎 佳典 (静岡大学学術院)</p>	<p><b>13:20 – 13:50 【研究発表】</b> Factors influencing EFL learners' lexical segmentation skill                   喬 エンシュ (名古屋大学大学院生)</p>
<p><b>13:50 – 14:20 【研究発表】</b> 英語スピーキング抵抗感の低減におけるシャ ドーイングの効果                   橋崎 諒太郎 (大阪経済法科大学)                   三上 綾介 (愛知学院大学)</p>	<p><b>13:50 – 14:20 【研究発表】</b> 通信制短大生の英語前置詞の誤用と原因追究： at, for, in, of, on, to の前置詞に着目して                   西田 一弘 (愛知産業大学短期大学)</p>
<p><b>14:20 – 14:50 【研究発表】</b> VST-NJ8 を基にした高校生向け語彙サイズテス トの開発：実施時間 5 分の CBT アプローチ                   杉浦 正利 (名古屋大学)                   村尾 玲美 (名古屋大学)                   阿部 大輔 (松山大学)                   古泉 隆 (名古屋大学)                   江口 朗子 (立命館大学)                   阿部 真理子 (岡山大学)</p>	<p><b>14:20 – 14:50 【研究発表】</b> 日本人大学生の態の誤りに対するタスクの違 いの影響：高校生との比較において                   岡田 美穂子 (金城学院大学)</p>
	<p><b>14:50 – 15:20 【実践報告】</b> 生成 AI の支援を伴う英語オーディオジャーナ ル課題の活用                   天野 修一 (広島大学)</p>

.....

.....

**15:30 – 16:50 講演 【第1室（大会議室）】**

「感性で捉える言葉の響き、意味、イメージ

～音楽科・芸術科音楽の学習における言語の位置付けと活用～」

司会：西尾 由里（名城大学）

講師：河合紳和氏

（文化庁参事官（芸術文化担当）付、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官）

ディスカッサント：西尾 由里（名城大学）・北西麻衣良（大同大学大同高等学校）

<概要>

音楽科・芸術科音楽の学習では、学習内容としても、学習ツールとしても、「言葉」が大きな役割を果たしています。本講演では、音楽科・芸術科音楽の学習内容を構成する4つの分野のうち「歌唱」を主に取り上げ、生徒が感性を働かせながら、どのように「言葉」を「音楽」と繋げていくかについて考えます。

また、音楽科・芸術科音楽における「言語活動」が、児童生徒の「思考力、判断力、表現力等」の育成をどのように促すか、またどのような点に留意が必要かについて、「鑑賞」の学習を例にしながら考えます。

【登壇者プロフィール】

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官。

愛知県豊川市に生まれる。静岡大学教育学部を経て横浜国立大学大学院教育学研究科を修了後、桐朋学園大学音楽学部オーケストラ研究生として指揮を専攻する。静岡県公立高等学校教諭を経て、令和2年4月より現職。学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者として、高等学校学習指導要領の改訂及び同解説 芸術編 音楽編 美術編の作成に携わる。現職着任後は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の作成を担当する。

.....

**16:50 - 閉会式 【第1室（大会議室）】**

司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）

主催者挨拶：天野 修一

（中部支部副支部長・広島大学）

事務連絡等：工藤 泰三

（中部支部事務局長・名古屋学院大学）

.....

**17:30 – 懇親会 【会場は当日ご案内いたします】**

## 発表概要

### 第1室（大会議室）

#### (1) 英単語並べ替え問題の解答履歴に迷い推定を包含する学習管理システム開発【研究発表】

山川 智也（静岡大学大学院生）・宮崎 佳典（静岡大学）

我々研究グループは、英単語並べ替え問題を学習者が解答した際のマウス軌跡ほか各種情報を記録し、加工データを特徴量とした機械学習により、解答中の迷いを推定する研究を進めている。本発表では同推定機能を開発中の学習管理システム（LMS）に組み込むことを主眼に置く。関連研究において、学習分析は LMS 中の学習者の解答結果や課題提出状況、教材閲覧回数などをもとに行われることが多いが、解答プロセスにおける詳細情報を取得するのは一般に容易ではない。本研究では LMS の標準的な機能に加え、従来のシステムでは検出が困難だった解答中の迷いの推定機能を包含し、教員が試行錯誤しながら迷い推定を実行可能なシステムとして実装する。今回はパイロット実験として少人数の学生を実験協力者として選定し、試作 LMS の使用ログや実験後のアンケート結果の分析を行う。将来的には英語教員を対象に実施を検討し、学習支援やアダプティブラーニングシステムを目指し、学習分析機能のインタラクティブ化などについて改良を行う。

#### (2) 英語スピーキング抵抗感の低減におけるシャドーイングの効果【研究発表】

橋崎 諒太郎（大阪経済法科大学）・三上 綾介（愛知学院大学）

聴いた音声を即座に繰り返すシャドーイングは、リスニング、フレーズの暗記、スピーキングなど、L2 スキルのさまざまな側面を向上させることが示されている。しかし、L2 スピーキングの感情的な側面に対するシャドーイングの効果は十分に探求されていない。本研究では 66 名の初級英語学習者の大学生（年齢:  $M = 18.77$ ,  $SD = 0.57$ ）を対象に、PPP 形式の短い英会話活動を組み合わせたシャドーイングトレーニングを実施し、スピーキング抵抗感が軽減されるかを検証した。スピーキング抵抗感は、質問紙を用いて、能力認知、不安、回避の 3 つの下位概念に分類して測定した。線形混合効果モデルによる分析の結果、全体的な抵抗感および 3 つの下位側面が、有意に軽減した。したがって、短時間の英会話活動を組み合わせたシャドーイングトレーニングは、学習者の L2 でスピーキングへの感情的な側面に肯定的な影響を与える可能性があることを示唆した。

#### (3) VST-NJ8 を基にした高校レベル語彙サイズテストの開発：実施時間 5 分の CBT アプローチ【研究発表】

杉浦 正利（名古屋大学）・村尾 玲美（名古屋大学）・阿部 大輔（松山大学）・古泉 隆（名古屋大学）・江口 朗子（立命館大学）・阿部 真理子（岡山大学）

高校生の英語力調査の一部として使用できるように、JACET8000 語彙リストを活用し開発された語彙サイズテスト VST-NJ8 に基づき約 5 分で実施できる語彙サイズテスト用プログラムを開発し、実際に語彙サイズの推定とテストの信頼性の検証を行った。VST-NJ8 は各レベル 20 語 8 レベル計 160 問（実施時間約 27 分）のテストで項目応答理論に基づき作成されている。この VST-NJ8 の項目特性を利用すれば 160 語すべてを測定しなくても語彙サイズの推定は可能であり、中学相当の下位 2 レベルと大学上級相当の上位 3 レベルを除いた中間 3 レベル各 20 語計 60 語を選び、各問

の解答制限時間を5秒にしたプログラムを開発した。今回実際に高校生3学年300名規模で本テストを実施し、テスト信頼性係数 $\alpha=.927$ 、項目応答理論に基づく推定語彙サイズ各学年約3200、3500、4900語という結果となり、GLMで学年間で有意差が確認された。学年ごとに語彙サイズが順調に発達していると推測される。

## 第2室 (小会議室)

### (1) Factors influencing EFL learners' lexical segmentation skill 【研究発表】

喬 エンシュ (名古屋大学大学院生)

The ability to recognize meaningful units within speech is essential for L2 listening comprehension. However, for EFL learners, recognizing familiar words in spoken English remains challenging due to the continuous nature of English speech, where words are rarely produced in isolation. This study examines factors affecting learners' lexical segmentation skill. Thirty EFL learners whose L1 is Chinese or Japanese completed a partial dictation task to assess segmentation accuracy. Item-level factors (phrase frequency and linking category) and individual factors (vocabulary size, listening familiarity, and speaking familiarity) were considered. Results indicate that there is no correlation between participants' vocabulary size and their segmentation skill. Among the factors considered, only listening familiarity with target phrases and the linking category of target phrases significantly predict segmentation accuracy. Findings suggest that merely expanding vocabulary size is insufficient for improving learners' listening skills. Listening practice emphasizing connected speech patterns and exposure to authentic resources is recommended.

### (2) 通信制短大生の英語前置詞の誤用と要因追究：at, for, in, of, on, to の前置詞に着目して 【研究発表】

西田 一弘 (愛知産業大学短期大学)

誤用の多い前置詞誤用の総合的な研究はあるものの、学習者のレベル別の研究は行われていない。通信制短大の教養科目「英語 B」69名の条件英作文の前置詞の誤用を、初級者(英検準2級以下、TOEIC549点以下)、中級者(2級、550点~729点)、上級者(準1級以上、730点以上)で分析した。例：①The Best Way to Learn English (テキストを読んだ感想を含めること) ②Any Good Internet Site(s) for Learning English ③Others (自分に関する事柄、意見などを含む) どの項目で記述する場合でも、5行以上で必ず同じ項目の前の人の内容にも触れること。各レベル共、抽象、空間、時間を表す前置詞の順に、前置詞の脱落、混同、挿入の順に誤用が多く、初・中級者では in, to で、上級者では to で誤用が多かった。初・中級者では、名詞の影響のある前置詞の脱落が多く、上級者ではそれは減少し自動詞では前置詞の脱落の誤用が多かった。前置詞に影響を与える名詞、自動詞のみならず他動詞でも前置詞の挿入の誤用はほぼ見られず、前置詞を過少使用する傾向があった。

### (3) 日本人大学生の態の誤りに対するタスクの違いの影響：高校生との比較において 【研究発表】

岡田 美穂子 (金城学院大学)

日本人英語学習者は\*The earthquake was happened のように、自動詞の過度受動化の誤りを犯すこ

とが指摘されている。また、熟達度の低い学習者による他動詞での受動態の過少使用の傾向も注目されている。本研究では、日本人大学生 161 人に対して同じ英文を用いた態産出課題と態判断課題を行い、自動詞の種類（非対格・非能格動詞）、熟達度、主語の有生性の 3 つの要因に焦点を当て分析した。その結果、動詞 4 種類（自動詞用法のみの非対格・自他両用の非対格・非能格に加えて、受動態の他動詞）ごとの主語の有生性別の正答率がタスク間で異なる結果となった。以前実施した日本人高校生 209 人を対象の同じ 2 種類のタスクでの実験結果との比較においても、熟達度と動詞の種類や主語の有生性別の結果に違いが見られた。個々の動詞に対する主語の有生性による分析結果も含めて、タスクや学習段階での違いを報告し、その結果の考察を試みる。

#### (4) 生成 AI の支援を伴う英語オーディオジャーナル課題の活用【実践報告】

天野 修一（広島大学）

本実践報告では、英語を学ぶ大学生を対象とした教室外課題としての生成 AI を用いたオーディオジャーナルの活用について述べる。この課題の目的は、学生自身が望む内容を英語で自然に表現できる力を養うことであった。学生は英語で話せるようになりたい日常の出来事を日本語で日記のように記述し、それを生成 AI で英語に翻訳し、確認、音読練習のうえ、録音して提出した。従来これを教室外課題として課すのは容易なことではなかったが、生成 AI による支援を受けることで、英語に自信のない学生でも無理なくこの課題に取り組むことができると期待された。さらに、録音した内容をペアやグループで報告し合う授業内活動も行った。事後アンケートによると、学生たちはこの課題を通じて日常的な英語表現を知り、それらを使えるようになったと感じ、さらに言語学習における生成 AI の活用にも習熟できたようである。総括すると、生成 AI の支援を伴うオーディオジャーナル課題は、学生が英語での表現力を無理なく向上させる手段として期待通りの役割を果たした。

.....



# ～ ご案内 ～

## 賛助会員出展

会場に出展していただきます。ぜひお立ち寄りください。

- 株式会社 アルクエデュケーション (<https://www.alc-education.co.jp/academic/>)
- 株式会社教育測定研究所 (<https://www.jiem.co.jp/>)
- iJapan 株式会社 (<https://www.igroupjapan.com/>)
- 合同会社 EduSupport (<https://www.edusupport.biz/>)
- ピアソン・ジャパン株式会社 (<https://www.pearson.com/languages/ja-jp.html>)
- 株式会社 EdulinX (<https://service.edulinx.co.jp/sc/>)

## 昼食

各自でお取りください。会場内に昼食を購入するところはありませんので、各自ご持参いただくか、近隣の店舗をご利用ください。また、12/1（日）までに大会参加申し込みをしていただく場合は事前に弁当を注文することができます（詳細は参加申込フォームをご参照ください）。

## 懇親会

- 会場は別途ご案内いたします。ぜひご参加ください。
- 会費は会員・非会員ともお1人 4,400 円、学生は 2,800 円です。当日お支払いいただきますので、できるだけお釣りのないようにご用意ください。
- 大会参加お申し込みの際に、懇親会の参加有無についてもご入力ください。

大会参加申込用  
QR コード



## 大会参加のご案内

- ご参加は 12月11日までに Google フォームよりお申し込みください。URL は <https://forms.gle/A16qLSCcCkjFnCN78> です（右上の QR コードもご利用いただけます）。
- 非会員の方は資料代として 1,000 円を当日受付の際にお支払いください。会員および大学学部生は無料です。
- 発表者の方も参加申し込みをお願いいたします。
- お子様連れでご参加の方は、控室（和室）をお使いいただけます。ご利用の方は受付にてお申し出ください。
- 感染症の感染拡大予防にご留意ください。発熱・咳などの症状がある方は来場をお控えください。
- 発表者の方は、発表開始 5 分前までにご自身の発表会場にお越しください。また、PC はご自身のものをお持ちください。

## 新規ご入会案内

- 会員になられますと、LET 年次研究大会（年 1 回）や支部研究大会（年 2 回）での研究発表・実践報告、紀要への投稿などをしていただくことができます。
- LET 本部サイト（下記）にて入会登録をしていただくと仮会員になります。仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます。なお、年会費は次の通りです。

個人会員：年額 6,000 円 / 学生会員：年額 3,000 円 / 団体会員：年額 6,000 円

- 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります（登録後 3 ヶ月以内にお手続きをお願いします）。

**会員登録、会員情報の更新は**

LET 本部サイト（<https://www.j-let.org/>）からお願いします →



.....

<メモにお使いください>

# ～ 会場へのアクセス ～

公共交通機関をご利用ください

- 会場：岐阜女子大学 文化情報研究センター（岐阜県岐阜市明徳町 10 番地 杉山ビル 4 階）
- アクセス：
  - JR 岐阜駅から金華橋通りを北へ約 1500 メートル、徒歩約 20 分
  - 岐阜バス 約 10 分（JR 岐阜バスターミナル、または名鉄岐阜バスのりばから、金華橋方面もしくは長良橋方面行きバスに乗車、（1）〔金華橋方面〕行きは『ドリームシアター前』下車徒歩約 1 分（2）〔長良橋方面〕行きは『商工会議所前』下車徒歩約 3 分



